

新入社員 1人お遍路

新人研修に「お遍路」を取り入れている会社がある。ベビー用品メーカー「コンビ」(東京都台東区)の新入社員は3日間、ひたすらお遍路として歩き続ける。一人で目的地を目指すことで、判断力や自主性を高めてもらうとしている。

東京の企業 研修に導入

さぬき市の山あいにある、88番札所の「大窪寺」。小雨が降る10日の午後2時すぎ、3日間歩き通した新入社員が一人、また一人と寺に到着した。先に着いていた新入社員が「お疲れさま」と出迎える。到着したばかりの社員は足を引きずりながら「疲れたー」と応えるが、みな笑顔だ。

お遍路研修には、東京での社内研修を終えた新入社員の7人全員が参加した。今年のコースは、79番目の札所の高照院(坂出市)から、大窪寺までの75キロ。8日の午前中にスタートし、大窪寺を目指した。社員は、5分ほどの間隔を空けて、1人ずつ分かれ

情に触れ 判断力養う



て歩く。白衣にすげ笠をかぶり、右手には金剛杖。地図だけを頼りに次の目的地を目指す。研修中、携帯電話

札所で般若心経を唱える「コンビ」の新入社員ら
—高松市屋島東町の屋島寺

話は預けてしまうため、インターネットでの道順検索はできない。迷ったら、地元の人に道を聞くしかない。

今年の新入社員の五島ちなみさん(22)は「前の人が始めたのは2年前。「道に迷ったり、地図を無くしたりといったトラブルにどう対応すればいいのか。正面から立ち向かうことで自立心を育てられる」。同社の研修担当で、総務人事部の金子寛数マネジャー(47)は、研修を始めた目的を説明する。泊まりがけのお遍路を新人研修に取り入れている企業は、めずらしいという。

2年前の研修のこと。初日は杖でふさげるなど、緊張感が欠けていたという。だが2日目、ある男性新入社員が、道を外れてふらふら歩くのに、金子さんが気付いた。訳を聞くと、「昨日、お遍路の道をきれいにしている地元の人に会った。僕もごみを見つけたときに拾おうと決心した」

と打ち明けた。金子さんは「共感さえすれば、はつきりと変わるんだ」と実感したという。

末吉長臣さん(22)は2日目、途中で道に迷った。それでも「地元の人に聞いた道を教えてくれた。『これでジュースでも買いなさい』と小銭も渡された」と振り返る。「どの道に進むべきかという決断や、様々な障壁がある厳しい所を進んでいく。そんなお遍路は、今の自分の境遇と似ているのかな」

研修に同行した先達の山下正樹さん(68)は「お遍路で、人の情けのありがたさが身にしみる。もっと多くの企業に取り入れてほしい」と話している。

(田嶋慶彦)